

# 「MY TREEペアレンツ・プログラム」の効果測定(2010年度～2019年度)

## 1. 目的

「MY TREEペアレンツ・プログラム」の実施前後に行ったアンケート調査を比較検討することによって、「MY TREEペアレンツ・プログラム」の効果について分析を行う。

## 2. 調査方法

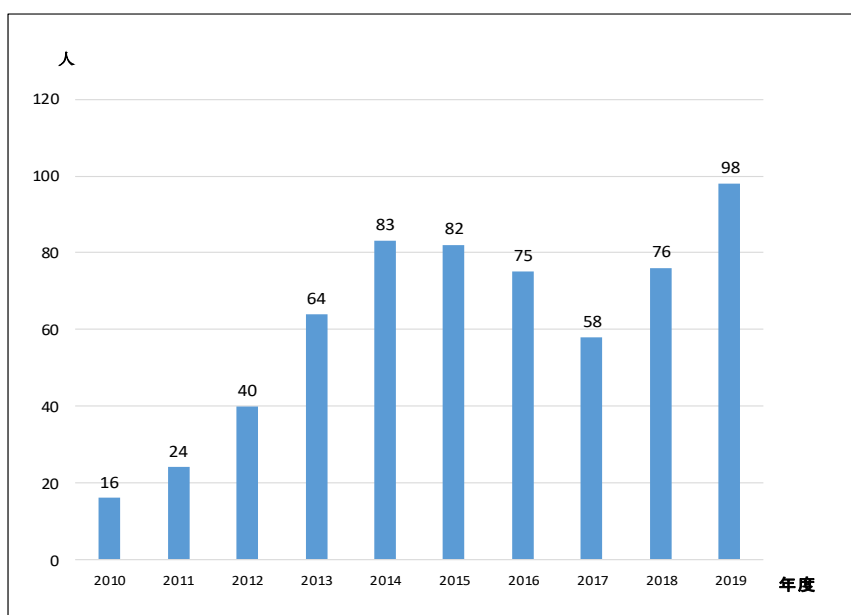
### 2-1 調査期間と調査対象

2010年度から2019年度に実施した「MY TREEペアレンツ・プログラム」の参加者に、プログラムの前後にアンケート調査を実施した。調査対象は、表2-1と図2-1に示すように「MY TREEペアレンツ・プログラム」に参加した616人である。ただし、アンケート調査項目の欠損値の多い人は省いた。

表2-1 調査対象

年度	人数	%
2010	16	2.6
2011	24	3.9
2012	40	6.5
2013	64	10.4
2014	83	13.5
2015	82	13.3
2016	75	12.2
2017	58	9.4
2018	76	12.3
2019	98	15.9
合計	616	100.0

図2-1 調査対象



参加者の平均年齢は、表 2-2 に示すように、36.8±6.1 歳（最小年齢 20 歳，最大年齢 57 歳）であった。ただし、年齢が未記入であった 1 人を省いた。

表 2-2 参加者の平均年齢

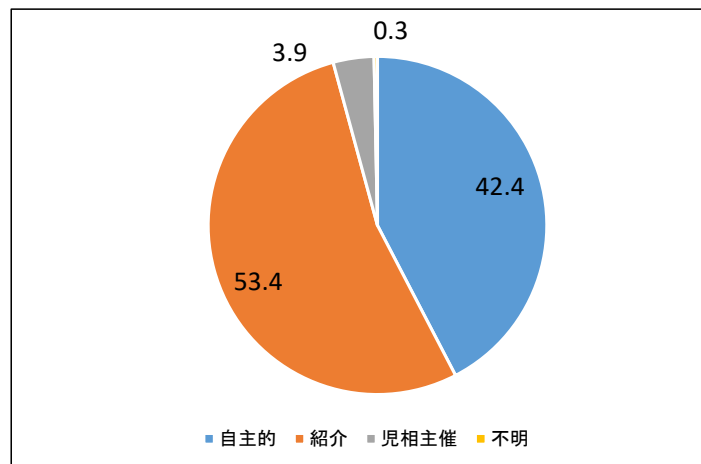
	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
年齢	615	20	57	36.8	6.1

参加経路別にみると、自主的参加は 261 人（42.4%），紹介は 329 人（53.4%），児童相談所主催/紹介は 24 人（3.9%），不明 2 人（0.3%）であった。

表 2-3 参加経路

参加経路	人数	%
自主的	261	42.4
紹介	329	53.4
児相主催	24	3.9
不明	2	0.3
合計	616	100.0

図 2-2 参加経路



## 2-2 調査内容

調査項目は、育児意識に関する 13 項目（順序尺度：1「はい」、2「どちらかといえばはい」、3「どちらかといえばいいえ」、4「いいえ」の 4 件法）、自己評価に関する 15 項目（順序尺度：1「全くない」、2「年に 1・2 回ある」、3「月に 1・2 回ある」、4「週に 1・2 回ある」、5「ほとんど毎日」の 5 件法）と、子育て状況に関する項目 9 項目（名義尺度：「はい」、「いいえ」の 2 件法、ただしⅢ-5 の項目については「過去」「今」「いいえ」の 3 件法）である。

## 3. 分析方法

### 3-1 基礎集計

すべての項目について、基礎集計を行った。

### 3-2 子育て状況：クロス集計

子育て状況については、プレとポストアンケート調査の関連性を検討するために、クロス集計を行い、カイ 2 乗検定を行った。

### 3-3 育児意識と自己評価：Wilcoxon の符号付き順位検定によるプレとポストの比較

プレとポストの関連をみるために、育児意識と自己評価の項目についてはウィルコクソンの符号付き順位和検定を行った。なお、この検定を用いたのは、各項目についてシャピロ・ウィルク検定を行った結果、正規分布を示していなかったからである。

### 3-4 育児意識と自己評価に関する下位尺度得点の算出

育児意識や自己評価に関する項目については、因子分析（重みなし最小二乗法，プロマックス回転）を行い、下位尺度得点を算出した。なお、得点化するにあたっては、育児意識や自己評価について否定的であるほど得点が高くなるように得点を付値した。

なお、因子分析を行うにあたっては、「MY TREE ペアレント・プログラム」実施後に行ったポストアンケート調査のデータを使用した。

### 3-5 育児意識や自己評価に関する下位尺度得点のプレとポストの比較

育児意識や自己評価の因子分析結果から得られた下位尺度得点について、「MY TREE ペアレント・プログラム」実施前後を比較するためにウィルコクソンの符号付き順位和検定を行った。

## 4. 調査結果

### 4-1 子育て状況の変化

表 4-1 子育て状況のクロス集計とカイ 2 乗検定

項目	回答	プレアンケート調査		ポストアンケート調査		正確有意確率	漸近有意確率
		人数	%	人数	パーセント		
Ⅲ-1 子育てを手伝ってくれる人がいる	はい	459	78.9	486	83.5	0.000***	
	いいえ	123	21.1	96	16.5		
	合計	582	100.0	582	100.0		
Ⅲ-2 子育ての大変さをわかってくれる人がいる	はい	430	74.8	478	83.1	0.000***	
	いいえ	145	25.2	81	16.8		
	合計	575	100.0	482	100.0		
Ⅲ-3 子育ての相談が出来る人がいる	はい	476	82.5	502	87.0	0.000***	
	いいえ	101	17.5	75	13.0		
	合計	577	100.0	577	100.0		
Ⅲ-4 子どもの健診(0歳、1歳、3歳児健診など)は受けている	はい	570	98.8	565	97.9	0.004**	
	いいえ	7	1.2	12	2.1		
	合計	577	100.0	577	100.0		
Ⅲ-5 DVを受けている。過去に受けたことがある	過去	219	38.3	257	44.9	0.000***	
	今	30	5.2	26	4.5		
	いいえ	323	56.5	289	50.5		
	合計	572	100.0	572	100.0		
Ⅲ-6 過去にDVを受けたことがある人のみ:(過去のDVが)今も影響している	はい	161	78.5	140	68.3	0.001***	
	いいえ	44	21.5	65	31.7		
	合計	205	100.0	205	100.0		
Ⅲ-7 リラックスできる時間がある	はい	393	68.3	459	79.8	0.000***	
	いいえ	182	31.7	116	20.2		
	合計	575	100.0	575	100.0		
Ⅲ-8 子育て以外の困った時に相談できる人がいる	はい	417	72.1	448	77.5	0.000***	
	いいえ	161	27.9	130	22.5		
	合計	578	100.0	578	100.0		
Ⅲ-9 自分が楽しめることをしている	はい	312	54.8	379	66.6	0.000***	
	いいえ	257	45.2	190	33.4		
	合計	569	100.0	569	100.0		
Ⅲ-10 楽しいことを一緒にする友人や家族がいる	はい	394	69.5	419	73.9	0.000***	
	いいえ	173	30.5	148	26.1		
	合計	567	100.0	567	100.0		

注)\*\*\*:  $p < .001$

子育て状況については、表 4-1 に示すように、項目 4「子どもの健診は受けている」と項目 5「DV を受けている。過去に受けたことがある」を除く 8 項目について肯定的な回答が有意に増えていた。

なお、項目 4「子どもの健診は受けている」については、プログラムの後の方が、子どもの健診を受けていると答えた人がやや少なくなっていた。また、項目 5 の「DV を受けている。過去に受けたことがある」については、プログラムの後の方が、過去に DV を受けた方と答えた人が多くなっていた。

## 4-2 育児意識と自己評価のプレとポストの比較 (Wilcoxon の符号付き順位検定)

### 4-2-1 育児意識のプレとポストの比較 (Wilcoxon の符号付き順位検定) (表 4-2-1)

育児意識については、すべての項目について、有意に順位が低くなっていた (ただし逆転項目 7, 10, 13 は高くなっていた)。

表 4-2-1 育児意識のプレとポストの比較 (Wilcoxon の符号付き順位検定) n = 616

項目	プレ・ポスト	人数	順位 平均値	標準偏差	中央値	Z	漸近有意確率 (両側)
I-1 手のかかる子どもがいるので腹が立つ	プレ	611	2.02	1.02	2.00	-11.960 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	587	2.59	0.98	3.00		
I-2 子どもは私を困らせてばかりいるように感じる	プレ	611	2.26	0.98	2.00	-11.857 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	585	2.86	0.93	3.00		
I-3 うちの子は、なかなか言うことを聞かないので腹が立つ	プレ	611	2.07	0.97	2.00	-11.161 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	586	2.57	0.94	3.00		
I-4 子どもを甘やかすとつけあがると思う	プレ	609	2.51	1.05	2.00	-10.855 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	586	3.05	0.91	3.00		
I-5 悪いことをしたら、体罰も必要だ	プレ	609	2.89	1.01	3.00	-14.826 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	587	3.68	0.63	4.00		
I-6 言ってもわからない時は、体罰でわからせることが必要だ	プレ	609	3.00	1.00	3.00	-13.342 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	586	3.69	0.65	4.00		
I-7 どんな場合でも、しつけにおいて、暴力をふるうべきではない	プレ	609	1.83	0.96	2.00	-7.216 <sup>c</sup>	0.000
	ポスト	586	1.45	0.86	1.00		
I-8 言葉で1.2度注意してもきかない時は、ある程度の体罰もやむを得ない	プレ	605	2.81	1.03	3.00	-14.270 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	587	3.59	0.75	4.00		
I-9 子どもが危険な時、咄嗟の暴力(体罰)はやむを得ない	プレ	601	2.23	1.06	2.00	-15.119 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	586	3.18	0.95	4.00		
I-10 困ったことが起きても必ず解決できると思う	プレ	608	2.41	1.03	2.00	-9.605 <sup>c</sup>	0.000
	ポスト	585	1.96	0.86	2.00		
I-11 困難に直面した時は悪い事態を考えるほうだ	プレ	610	1.59	0.84	1.00	-8.241 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	586	1.91	0.89	2.00		
I-12 面倒な事には最初からあきらめる	プレ	607	2.72	0.93	3.00	-2.749 <sup>b</sup>	0.006
	ポスト	586	2.81	0.85	3.00		
I-13 困った時は、誰かに相談できる	プレ	607	2.09	0.99	2.00	-5.134 <sup>c</sup>	0.000
	ポスト	586	1.88	.912	2.00		

注 1) a. Wilcoxon の符号付き順位検定, b. 負の順位に基づく, c. 正の順位に基づく

2) 1位: はい, 2位: どちらかといえばはい, 3位: どちらかといえばいいえ, 4位: いいえ

#### 4-2-2 自己評価のプレとポストの比較 (Wilcoxon の符号付き順位検定) (表 4-2-2)

自己評価についてはすべての項目 (15 項目) について有意に順位が高くなっていた。

表 4-2-2 自己評価のプレとポストの比較 ( Wilcoxon の符号付き順位検定) n =616

項目	プレ・ ポスト	人数	順位 平均値	標準偏差	中央値	Z	漸近有意確率 (両側)
II-1 私は価値のないつまらない存在だと思うことがある	プレ	609	3.17	1.31	3.00	-8.009 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	585	2.74	1.18	3.00		
II-2 自分の人生は辛いことが多すぎると思うことがある	プレ	605	2.94	1.29	3.00	-6.582 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	586	2.64	1.19	2.00		
II-3 人はどうせ自分から離れていってしまうと思う	プレ	608	2.71	1.38	2.00	-5.591 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	582	2.40	1.21	2.00		
II-4 つらいときにも助けをもとめることができない	プレ	603	2.86	1.43	3.00	-6.167 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	584	2.51	1.29	2.00		
II-5 自分のほんとうの気持ちを人に語れないときがある	プレ	609	3.29	1.35	3.00	-6.828 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	582	2.88	1.25	3.00		
II-6 子どもに暴言を吐いてしまう	プレ	607	4.02	1.03	4.00	-13.201 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	579	3.31	1.16	3.00		
II-7 子どもをほめるよりも、けなしてしまう	プレ	606	3.75	1.20	4.00	-12.376 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	575	3.06	1.22	3.00		
II-8 怒りを子どもに爆発させてしまう	プレ	610	3.92	1.01	4.00	-13.217 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	578	3.22	1.10	3.00		
II-9 しつけとして、子どもをベランダや屋外に閉めだす	プレ	611	1.56	0.87	1.00	-9.863 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	581	1.19	0.49	1.00		
II-10 罰として、こどもの気に入っているものを壊す	プレ	612	1.65	0.92	1.00	-7.148 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	581	1.37	0.70	1.00		
II-11 つい子どもに怒鳴っている	プレ	610	4.26	0.96	5.00	-14.191 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	581	3.45	1.21	4.00		
II-12 腹がたつと、子どもを無視する	プレ	610	3.18	1.38	3.00	-9.966 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	579	2.57	1.26	3.00		
II-13 しつけとして、子どもに平手で叩く	プレ	610	2.70	1.23	3.00	-13.675 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	579	1.88	1.09	1.00		
II-14 子どもにげんこつで殴る	プレ	611	1.65	1.11	1.00	-6.261 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	579	1.37	0.79	1.00		
II-15 子どもを足蹴りする	プレ	611	1.83	1.03	1.00	-9.221 <sup>b</sup>	0.000
	ポスト	579	1.44	0.79	1.00		

注1) a. Wilcoxon の符号付き順位検定, b. 正の順位に基づく

2) 1位: 全くない, 2位: 年に1, 2回ある, 3位: 月に1, 2回ある, 4位: 週に1, 2回ある, 5位: ほとんど毎日

### 4-3 因子分析

#### 4-3-1 育児意識に関する因子分析（表 4-3-1）

「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の実施後に行ったアンケート調査の育児意識に関する 13 項目の因子分析（重みなし最小二乗法，プロマックス回転）を行った。その結果，表 4-3-1 に示すように，3 つの因子を抽出することができた。第 1 因子は「体罰容認」，第 2 因子は「被害感情」，第 3 因子は「悲観的思考」と命名した。それぞれの因子について下位尺度得点を算出した。ただし，I -7，10，13 は逆転項目である。

表 4-3-1 育児意識に関する因子分析

	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
	体罰容認	被害感情	悲観的思考	
I -6 言ってもわからない時は、体罰でわからせることが必要だ	.892	-.003	-.078	.758
I -5 悪いことをしたら、体罰も必要だ	.887	-.014	-.064	.747
I -8 言葉で1,2度注意してもきかない時は、ある程度の体罰もやむを得ない	.829	-.020	.036	.694
I -9 子どもが危険な時、咄嗟の暴力（体罰）はやむを得ない	.567	-.007	.077	.350
I -7 どんな場合でも、しつけにおいて、暴力をふるうべきではない	-.461	.029	-.026	.210
I -4 子どもを甘やかすとつけあがると思う	.407	.232	.093	.345
I -3 うちの子は、なかなか言うことを聞かないので腹が立つ	-.034	.878	-.070	.705
I -1 手のかかる子どもがいるので腹が立つ	-.011	.854	-.024	.706
I -2 子どもは私を困らせてばかりいるように感じる	.043	.710	.093	.595
I -10 困ったことが起きても必ず解決できると思う	-.051	.056	-.668	.440
I -11 困難に直面した時は悪い事態を考えるほうだ	-.105	.094	.523	.292
I -13 困った時は、誰かに相談できる	-.002	.048	-.461	.198
I -12 面倒な事には最初からあきらめる	.085	-.003	.449	.230
寄与率(%)	30.331	11.379	6.566	
累積寄与率(%)	30.285	41.664	48.230	
Cronbach の $\alpha$ 係数	.820	.852	.448	

因子抽出法：重みなし最小二乗法 ， 回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

#### 4-3-2 自己評価に関する因子分析（表 4-3-2）

育児意識の因子分析と同様に、「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の実施後に行ったアンケート調査の自己評価に関する 15 項目の因子分析（重みなし最小二乗法，プロマックス回転）を行った。その結果，表 4-3-2 に示すように，3 つの因子を抽出することができた。第 1 因子は「感情コントロール困難」，第 2 因子は「孤立感・不信感」，第 3 因子は「身体的暴力」と命名した。それぞれの因子について下位尺度得点を算出した。

表 4-3-2 自己評価に関する因子分析

	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
	感情コントロール困難	孤立感・不信感	身体的暴力	
II-8 怒りを子どもに爆発させてしまう	.890	.036	-.028	.790
II-6 子どもに暴言を吐いてしまう	.885	-.008	-.028	.751
II-1 1つ、子どもに怒鳴っている	.881	-.042	-.025	.724
II-7 子どもをほめるよりも、けなしてしまう	.771	.003	.030	.622
II-12 腹がたつと、子どもを無視する	.526	.004	.173	.413
II-4 つらいときにも助けをもとめることができない	-.012	.814	-.006	.652
II-3 人はどうせ自分から離れていってしまうと思う	-.038	.785	.029	.608
II-2 自分の人生は辛いことが多すぎると思うことがある	-.090	.732	.050	.512
II-1 私は価値のないつまらない存在だと思うことがある	.106	.715	-.026	.567
II-5 自分のほんとうの気持ちを人に語れないときがある	.042	.700	-.052	.492
II-15 子どもを足蹴りする。	-.077	-.038	.848	.634
II-14 子どもにげんこつで殴る	-.054	.024	.665	.413
II-13 しつけとして、子どもに平手で叩く	.199	.023	.601	.549
II-10 罰として、こどもの気に入っているものを壊す	.120	.019	.468	.305
II-9 しつけとして、子どもをベランダや屋外に閉めだす	.028	-.012	.411	.180
寄与率(%)	35.005	13.235	6.523	
累積寄与率(%)	35.005	48.240	54.763	
Cronbach の $\alpha$ 係数	.899	.866	.752	

因子抽出法: 重みなし最小二乗法，回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

#### 4-4 育児意識と自己評価の下位尺度得点に関するプログラム実施前後の比較

(表 4-4, 図 4-4-1, 図 4-4-2)

「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の効果を検討するために、育児意識の3因子の下位尺度得点と自己評価の3因子の下位尺度得点について、プログラム実施前後の各因子の下位尺度得点に有意差があるかどうかを明らかにするために、ウィルコクソンの符号付き順位和検定を行った。

表 4-4, 図 4-4-1 と図 4-4-2 からわかるように、いずれもプログラム実施後の下位尺度得点は、プログラム実施前の下位尺度得点より 0.1%の危険率で有意に低くなっていた。

この結果から、「MY TREE ペアレンツ・プログラム」に参加することによって、体罰容認、被害感情、悲観的思考などの育児意識は軽減され、また、感情コントロール困難、孤立感・不信感、身体虐待などの自己評価も軽減されることが明らかになった。

表 4-4 育児意識や自己評価に関する下位尺度得点のプレとポストの比較

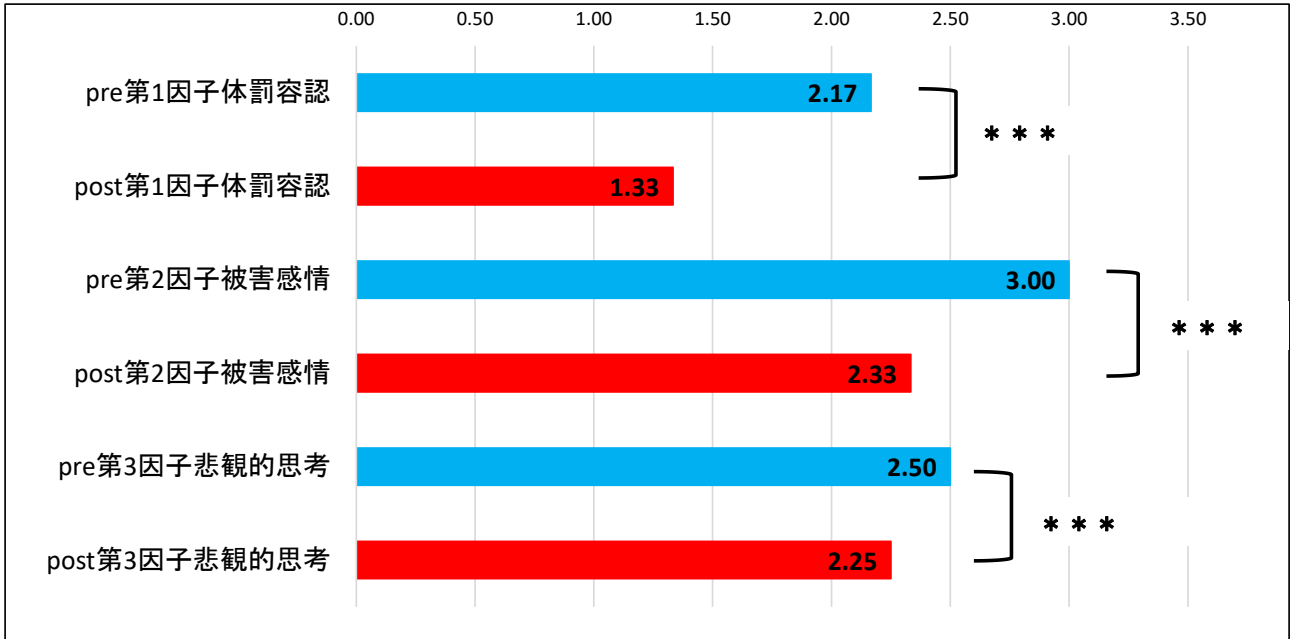
因子		プレ・ポスト	人数	順位 平均値	中央値	Z	漸近有意確 率 (両側)
育児 意識	第1因子体罰容認	プレ	594	2.23	2.17	-17.630 <sup>b</sup>	.000
		ポスト	583	1.54	1.33		
	第2因子被害感情	プレ	609	2.88	3.00	-14.047 <sup>b</sup>	.000
		ポスト	585	2.33	2.33		
	第3因子悲観的思考	プレ	605	2.55	2.50	-10.556 <sup>b</sup>	.000
		ポスト	583	2.28	2.25		
自己 評価	第1因子感情コントロール困難	プレ	603	3.83	4.00	-15.659 <sup>b</sup>	.000
		ポスト	572	3.12	3.20		
	第2因子孤立感・不信感	プレ	596	2.99	3.00	-9.016 <sup>b</sup>	.000
		ポスト	577	2.62	2.40		
	第3因子身体的暴力	プレ	609	1.88	1.80	-14.710 <sup>b</sup>	.000
		ポスト	579	1.45	1.20		

a. Wilcoxon の符号付き順位検定

b. 正の順位に基づく

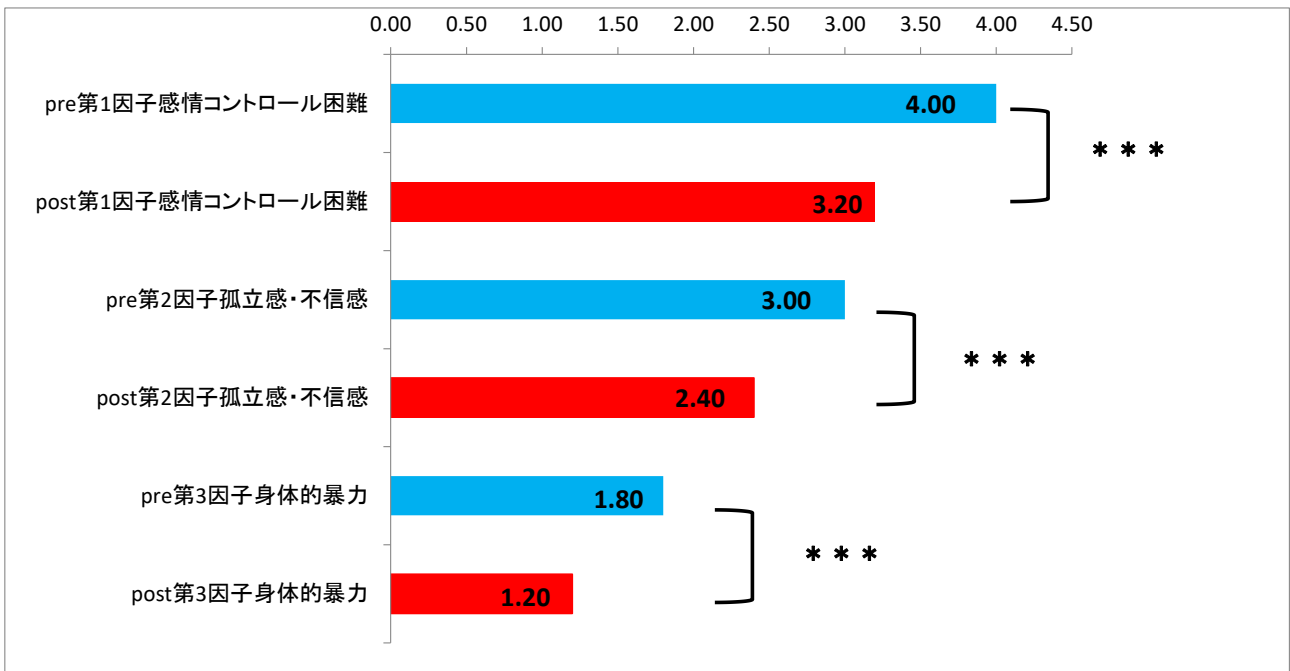


図 4-4-1 育児意識に関する下位尺度得点のプレとポストの比較 (n=616)



注) \*\*\* :  $p < .001$

図 4-4-2 自己評価に関する下位尺度得点のプレとポストの比較 (n=616)



注) \*\*\* :  $p < .001$

## 5. 結論

分析の結果、以下の4点が明らかになった。

①子育て状況については項目4「子どもの健診は受けている」と項目5「DVを受けている。過去に受けたことがある」を除く8項目について肯定的な回答が有意に増えていた。

②育児意識については、すべての項目についてポストの方が有意に順位（1位：はい、2位：どちらかといえばはい、3位：どちらかといえばいいえ、4位：いいえ）が低くなっていた。ただし逆転項目7, 10, 13は高くなっていた。このことからプログラムを受けることによって育児意識が肯定的に変化したことが明らかになった。

③自己評価については、すべての項目（15項目）についてポストの方が有意に順位（1位：全くない、2位：年に1,2回ある、3位：月に1,2回ある、4位：週に1,2回ある、5位：ほとんど毎日）が高くなっていた。このことからプログラムを受けることによって自己評価が肯定的に変化したことが明らかになった。

④育児意識と自己評価に関する項目を因子分析した結果、育児意識については「体罰容認」「被害感情」「悲観的思考」の3因子、自己評価については「感情コントロール困難」「孤立感・不信感」「身体的暴力」の3因子が抽出された。これらの3因子の下位尺度得点を算出するにあたって、否定的であるほど得点が高くなるように得点を付値した。すべての因子の下位尺度得点についてポストの方が有意に低くなっていたことから、肯定的に変化したといえる。

以上のことから、「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の効果が明らかになった。

(2020.6.21 八重樫牧子記)